

くるみ「だめだ…限…界だ…。」

とっまっと

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

噛まれたくるみ。

薬を打つが進行がどんどん進み…

(オリジナル要素ありけり)

目次

くるみ 「だめだ…限…界だ…」

くるみ「だめだ…限…界だ…。」

地下に潜り、そこでメグ姉を見つけた。だけど

もう私の知ってるメグ姉では無かった。気が引けない気持ちのまま、メグ姉にとどめを刺そうとしたが、顔を見た瞬間、メグ姉の笑顔が写ってしまい…：…噛まれた。

(→アニメ見てないと分かりにくくてすまぬ)

くるみ(あれから数日、とくに体に異変は無かったはずだが、最近妙に体が冷たい。あとなぜかヤツらに襲われなくなった。)

くるみ(あの薬はヤツらにならなくなる薬ではなく、進行を止める? ような効果だと思う。)

くるみ「いずれは私も…。」

みーくん「どうしました?先輩?」

くるみ(…：…こいつになら言ってもいいのでは?いや、一番だめだ、

容赦なく殺してくる気がする…)

くるみ「んん、何でもないさ」???

みーくん「(ω)。(o_o) (???)」

くるみ「…見回りしてくる。」???

みーくん「あ、はい気をつけてくださいね」

くるみ(一言の心配が罪悪感を生み出す…)

私は廊下を渡りながら考えていた。

今日は異常なし。戻ろう。

ゆき「あれ〜くるみちゃんもう戻ったの?」

くるみ「…：…ああ。」

ゆき「どうしたの?すごい具合わるそうだよお〜」

くるみ(だから心配しないで欲しい、罪悪感が…)

くるみ(やはり言ってしまうか、いや…)

りーさん「辛いことがあるならなんでも聞いてあげるから、話して？ね？」

くるみ（…言えないよ）

りーさん「私そんなに信頼されてないのかしら？（*^_^*）」

くるみ「いやそんなんじゃないさ、」

りーさん「じゃあ話してみて？」

くるみ「…分かったその代わりに私はこの場所を出ていく。」

りーさん「…！」

くるみ「今から私の話を聞いて私のことを見捨てるならそうしてくれ、その方が楽だ…」

りーさん「…」

私は全て話した、体が異常に冷たいこと、ヤツらに襲われなくなつたこと、最近空腹が酷いことすべて。

りーさん「…うん分かったわ、見捨てたりなんかしないわよ」

くるみ「何言つてんだよ…今にもりーさんを食べたい気分なんだよ？」

りーさん「その時は…いいよ」

くるみ「え…なにが」

嫌な予感がした。

りーさん「我慢出来ないなら私を食べていいわよ」

バカにするなよ…そんなこと出来るわけないだろ…

くるみ「いやいやいやいや絶対できないよ！」

私はりーさんの一言で泣きそうだった。

りーさん「でも我慢出来ないんでしょ？」

りーさん「あなたに食べられるなら他のに食べられるよりマシだから…」

くるみ「…」

くるみ「…考えておくよ。」

私は泣いた。

更に数日後

くるみ（…絶対にだめだ！そんなことするくらいなら今すぐにでも死んでやるさ）

くるみ（……………）

くるみ（考えるのやめよ、我慢だ何も考えるな）

ゆき「今日は〜カレー〜!!!」

くるみ「あ、うん」

ゆき「いい匂い〜」

くるみ（……………）

くるみ（…ゆきって意外と胸あるな…）

くるみ（っ！なんで急に体に行くんだよ!?!やばいやばい何も考えな）

くるみ（モヤモヤモヤモヤ）

くるみ（どうすればいい）

くるみ「はあ」

ゆき「…本当に最近変だよくるみちゃん？」

くるみ「話かけないでくれ」

私は心にも思っていないことを呟いてしまった

ゆき「へ?」

くるみ「話かけるなああああああ!!!」

ゆき「…」

くるみ「は!？」

ゆき「分かったよ」…グス

くるみ「い、いや、あの、えっとほんとにごめん!!!」

ゆき「。。。。。。。。」

くるみ「…すまんゆき」

みーくん「…」

みーくん（最近変だ、あんななりだけ優しいハズの先輩が八つ当たりなんて…）

みーくん（それに最近になって全く先輩と会話してないし、そして

なにより…)

みーくん (…:体が冷たかった、)

みーくん (1度だけ、あいつらの死にたての死体を触ってみたけど…全くと言っていないほど体温が感じられなかった、)

みーくん (あいつらに噛まれて薬を打ったけど進行が止まっていない?それとも抑制する薬と考えた方がいいか)

みーくん (だとしたら先輩をこのままにしておいたら…)

みーくん (よし聞いてみよう)

寝る前↓

くるみ「私はまた、廊下で寝るよ」

りーさん「…分かったわ」

みーくん (…よしみんな寝たな)

ガラガラ

みーくん「先輩ボソ」

くるみ「…起きてたのか」

みーくん「…一つ聞いていいですか?」

くるみ「…もう分かってるんだろ」

みーくん「…何がですか?」

くるみ「賢いお前のことだ、察してるだろ…」

みーくん「…:なら話は早いですね」

くるみ「お前は私にどうして欲しい」

みーくん「…正直このままにする訳にはいきません」

みーくん「だからといって見捨てるわけにもいきません」

みーくん「だから、」

くるみ「…」

みーくん「楽に死ぬ方法を探しませんか?」

くるみ「…:そうしたいなら私もそうしたいさ」

くるみ「でもな!いくら窓から飛び降りても怪我一つないんだよ!

いくらやつても!この事は誰にも言わなかったさ、」

くるみ「楽になんておろか死ぬことすら出来るか分からない!」

みーくん「…なら」

みーくん「私が殺します」

くるみ「…もう勝手にしてくれ」

みーくん「…それじゃあ、シヤベル借りていいですか？」

くるみ「ああ、出来れば一撃で仕留めてくれたら有難いな」

みーくん「…先輩…：さよなら」…グス

くるみ「くっっ！」

その時にだった、なぜか体が勝手に

みーくん「っ！どうして止めるんですか！」

くるみ「ち、違うんだよ！体が勝手に…」

みーくん「キヤッ！」

私は美紀を押し倒し…

無意識に首の付け根に噛みついていた。

くるみ「ごめんごめん我慢できないんだよお」グスポロポロ

私は

泣きながら

美紀の声にならない悲鳴を聞きながら

美紀の体の肉を

るから私はd…」

言いかけた時だった

ゆき「あれくみーくんどこお〜?」

ゆきが起きてきた。

りーさん「…」

りーさん「あの子は…別の場所に言ったのよ…」

くるみ「っ!?!」

くるみ（どうして嘘をつくんだよ）

くるみ（ついたつてメリツトなんてないだろ!）

くるみ「ゆき…ほんととはっ」

りーさん「だめよ」

くるみ「(;´。´ ω´。´) ビク」

りーさん「ゆきちやんに本当のことを話さないで」ボソ

くるみ「どうして」

りーさん「怖がるのもあるし、」

くるみ「?。」

りーさん「あなたがここに居れなくなる」

くるみ「は…?。」

りーさん「…」

くるみ「何言ってるんだよ!!!」

私は初めてりーさんにキレた。

りーさん「っ!?!」

くるみ「いたら危険なのに居場所が無くなるだど!?!」

くるみ「ふざけるなよ!」

くるみ「…私は…みんなを食べたくないんだ…」

くるみ「それに…美紀のあの言葉頭から離れないんだよ…」

くるみ「時間が経つに連れて罪悪感が増えて、頭がおかしくなりそうなんだよ!。」

くるみ「だからもう…」

りーさん「…」

りーさん「分かったわ」

くるみ「…ああ」

りーさん「あなたには別の教室に居てもらわね」

くるみ「!?だから理解したの!?!」

りーさん「大丈夫よ鍵も掛けるし、あなたの部屋にも外から鍵をか
ければね?」

くるみ「どうしてそこまでするんだよ…」

りーさん「…それだけあなたには離れて欲しくないからよ」

くるみ「へ?」

ゆき「(ω、ω)。○○(???)」

りーさん「それだけだかあ?」

くるみ「…」

数日後の朝

くるみ「はあ、なんとか死体でしのいでるけど…」

くるみ（やはりなんか満足しない…）

くるみ「まあ軟禁されてる訳だし、私が暴れてもわりと問題ないん
だよあ」

ガチャ カチ

りーさん「おはよう」

くるみ「あ、おはよ」

りーさん「朝ごはん食べる?」

くるみ「いらない」

りーさん「…」

くるみ（もうまともなものを食べれないなんて口が裂けてもいえな
い）

りーさん「…もう普通の食べ物は食べれないのね…」

くるみ「ドキッ!?!」

くるみ「……」

くるみ「……ああ」

くるみ「頼む今はほっといてくれ」

りーさん「あのね……一言いわせて？」

くるみ「なんだ？」

りーさん「あなたがどんなことになっても見捨てたりなんかしない

わ」(*^^*)

くるみ「……」

くるみ「そうかよ……」

りーさん「また後でね」

くるみ「……」

くるみ（鍵：掛けてないだろ……まあ、いいか）

くるみ（もうダメだ……ゆきとりーさんを見る度にとてつもなく食べ

たくなる……）

くるみ（りーさんの体が美味しそうにみえる……）

くるみ（ゆきも……）

くるみ（ああああああああ食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい
食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい
食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい
食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい食べたいたい

くるみ（○）

くるみ（寝よ……）

くるみ（……いつまで寝てたんだ？今は何時だ……）

くるみ（あれ？なんか、私こんな所に居たっけ……？）

くるみ（ここは？）

くるみ（……）

くるみ（……）

くるみ（ツ!?!）

